

1. 目的

H - A ロケット輸送能力向上については、H - A 増強型として開発（実施フェーズ）へ既に移行しているが、その後の環境条件の変化を受けて、宇宙開発事業団（以下、「NASDA」という。）ではプロジェクトの全体像を大きく見直すこととしている。

従って、「宇宙開発に関するプロジェクトの評価指針」（平成13年7月 宇宙開発委員会決定。以下、「評価指針」という。）に基づき、開発（実施フェーズ）期間中の中間評価として、本プロジェクトの見直し内容と根拠についての妥当性に関する評価を行った。

計画・評価部会では、本プロジェクトの評価について、H - A ロケット輸送能力向上評価小委員会を設けて詳細な評価と意見の集約を行うこととした。本文書は、H - A ロケット輸送能力向上評価小委員会における評価結果をとりまとめたものである。

2. 経緯等

H - A ロケット輸送能力向上に関しては、これまでH - A ロケット増強型として開発が行われ、平成11年度に、宇宙開発委員会において、平成14年度の飛行実証を目標に平成12年度からの増強型試験機の開発着手が妥当とされた。

その後、平成11年11月のH - A ロケット8号機の打上げ失敗等を踏まえ、計画が順次見直されてきており、当該見直しについての審議を宇宙開発委員会にて実施してきた。平成13年度の審議においては、打上げ目標年度の平成17年度への変更を妥当とした。

また、輸送対象として想定された宇宙ステーション補給機（以下、「HTV」という。）については、平成9年度より整備が開始され、国際宇宙ステーション（以下、「ISS」という。）計画の状況に応じて、計画の見直しを順次実施し、平成14年度の審議においては、技術実証機の打上げ目標年度の平成19年度への変更を妥当とした。この間、米国航空宇宙局（以下、「NASA」という。）との調整を受け、搭載貨物量の設定や機体設計が